



準備したイスが足りなくなり追加されるほど大勢の観客が集まった今年の学習発表会。開始30分前から並ぶなど、地域が待ち望んだ8年ぶりの神舞に会場からは盛大な拍手が送られます。神舞の前には池田の歴史や伝統についても発表され真剣な眼差しで聞き入っていました。



## かつては日本全国で盛んに行われていた我が国最古の芸能。

おうりょうじ  
神舞保存会 押領司 純一 さん

池田小学校による地域伝統継承の一環で始まった子どもたちによる神舞の指導を行った。自身も池田地区に伝わる歴史や神舞を丁寧に調べまとめている。子どもたちへ事前に披露するため数年ぶりに社殿で練習したと話す池田川南在住の59歳。



平成4年に復活した神舞は約3年おきに秋の大祭、新嘗祭で奉納されてきました。神舞は「神事」として奉納される一方で、地域の人たちが見て楽しむ「芸能」という一面も秘めています。当時は文化祭や秋祭りと呼ばれることも多く、町外へ出向いて披露することも多かった神舞保存会。結果として地域の伝統文化や価値を広く知ってもらう機会にもなっていたと考えられます。

しかし、平成25年11月28日に旗山神社の社殿で奉納された神舞を最後に今日まで8年間、舞われることは

ありませんでした。継承者の高齢化や人口減による担い手不足、社会の多様化やニーズの変化などさまざまな要因は考えられます。それでも神舞は時代に合わせ変化し、途絶えることなく今に受け継がれてきました。「自分たちの代で絶やす訳にはいかない」と模索する押領司純一さんですが、継承に向けた解決策が見えない日々は刻々と流れていきます。そんなとき、池田小学校

地域の  
声 三宅 渉 さん (神舞保存会)

子どもたちが神舞に興味を持ち、取り組んでくれたことが嬉しい。池田旗山の神舞は終戦当時で30年以上続くと聞いています。長い歴史のなかで継がれてきた笛や太鼓など「楽」も伝えていけたら。



地域の  
声 新久保 みどり さん (竜崎)

学習発表会で神舞をすると聞いて楽しみにしていました。久しぶりの神舞でしかも子どもたち。大勢の観客を前にして堂々と力強く舞う姿に感動しました。丁寧に指導してくれた方々にも感謝しています。



地域の  
声 笹原 としえ さん (笹原)

「生きているうちに二度と見ることはないと思っていた」と多くの来場者や年配者から喜びの声を聞きました。子どもたちの神舞は多くの人に元気を与えたのでは。継承に向けたきっかけになれば嬉しいです。



### 神舞再開に向けた大きな一歩

8年前を最後に途切れていた池田旗山の神舞。6年生にとっても初めて目にする地元池田に伝わる神舞は、10月4日の全校朝会で披露されました。押領司義人さんの太鼓と、大園六男さんの笛に合わせ、純一さんが力強く矢張り鬼神を舞います。自分たちが生まれ育った地に脈々と受け継がれてきた神舞は子どもたちの目にどう映ったのでしょうか。

11月13日、学習発表会で披露される神舞を見ようと30分以上前から来場する人の姿も見られました。地域の方だけで70人を超え、笹原昂くんは「6年間で一番多かった」と作文で振り返っています。この日のために準備した羽織はかまに面を付け、ツノブキを手に堂々と力強く舞が始まりました。純一さんの指導に加え、過去の映像を何度も見返して練習に励んだ子どもたちの神舞に、会場からは盛大な拍手が送られました。